

# 林原美術館NEWS

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS  
vol.36  
令和7年度

## 老松白蛇図鐔つば

一般財団法人 林原美術館 館長 谷 一 尚

本年は乙巳で「木の弟(陰) ㇏きのと・へび」。乙は草木がしなやかに伸び、巳は極み。口は蛇の頭ととぐろを巻いた様、下は胴と尾を示す象形文字で蛇そのものを表します。冬ごもりをしていた蛇が地上に出て、新しい活動をする意。

植物の芽が子房の中に芽ぐみ始めることをも示し、長寿で不老不死や金運・財運の象徴。蛇が何度も脱皮するように、再生変化を繰り返しながら柔軟に展開する年とされます。

六十年前の乙巳一九六五年(昭和四十)は、外貨獲得の功でビートルズがエリザベス女王からロイヤル・ビクトリア勲章を授与され、一二〇年前の一九〇五年(明治三十八)は日本海海戦でロシアのバルチック艦隊を撃破、アインシュタインが弱冠二十六歳で特殊相対性理論を完成させ物理学の常識を覆した年でした。

写真は当館所蔵『老松白蛇図鐔』。表に「寿岳斎石黒政美謹彫」、裏に「文化十四(一八一七)丑ノ桃春」の銘が刻まれています。石黒政美は一七七四年(安永三)江戸生まれの装剣金工師。元々は幕臣でしたが家業は継がず、狩野派に絵を学び、花鳥風月を



老松白蛇図鐔 表(左)裏(右)

織細な高彫色絵で表現し、一世を風靡した名工の全盛期四十三歳の作。高肉彫の木柵に囲まれ、境界を示す金の注連縄しめなわが巻かれ、長寿の象徴である御神木の老松に、銅の舌を持つ銀象嵌の白蛇が絡まり、運氣上昇の煌めく朝日・松の細枝・苔・蛇の目は金の色絵象嵌と吉祥尽くしの図様となっています。

当館も北斎の肉筆画の名品「葛飾前北斎為一筆」の款記のある「巖頭鶴図」を蔵していますが、北斎肉筆画の白眉といえば、米国フリーア美術館蔵の『琵琶に弁天の白蛇図』。琵琶を包む色彩豊かな袋に絡む赤目の白蛇を華麗に描いており、「弘化四(一八四七)丁未年四月廿日己巳ノ日筆ヲ下ス 八十八老卍」の落款があります。六十日に一度やって来る、技芸・財運を司る弁財天(弁天様)の吉日縁日に、その持物である琵琶の袋に絡む白蛇を、米寿の北斎が描き、学芸の長久を祈ったことが判ります。

当館本年度は、東蔵の改装に着手。貸ギャラリーや講演会場として活用し、新しい試みとして三年周期のトリエンナーレで国際的な芸術コンペティション「掌」たからこころの開催を予定。元日から龍が暴れまくった昨年と比べ、今年は平穏無事で学問文化が伸展する年であるよう願って筆を擱きます。

企画展

「祭日日和」  
さいじつびより

「暮らしを彩る年中行事」

令和7年4月12日(土)～6月15日(日)

新年を寿ぐ正月にはじまり、花見や紅葉狩りなど四季折々の風景を楽しむ年中行事は、人々の暮らしを彩る「ハレの日」として親しまれてきました。本展では、岡山藩主池田家に伝わる宮中行事の絵巻や屏風絵をはじめ、書初めをした藩主自筆の書、教養や嗜みを伝えるお道具をご紹介いたします。あわせて、本展の特別企画として、日本の伝統芸道である「蹴鞠」の体験・講座・ワークショップを岡山県立図書館との連携イベントとして開催するほか、図書館では今回の企画展に係る関連図書の展示も行います。



年中行事絵巻(「日吉山王祭」部分) 江戸時代

企画展

「美術鑑賞の事始め ―見方の味方―」

令和7年6月28日(土)～9月7日(日)

「美術館ってかた苦しいし、楽しくない。絵や、きれいなものは、見れば分かるけど、刀はどれも同じ形だし、違いもよく分からない。そう思っている、このあなた！ 私たちはそんな皆さんの味方です。この展覧会で作品の見方をマスターしちゃおう！ 見方のコツや、意味や背景がわかれば、作品は何倍にも楽しめます。この夏は子供も大人も、みんなでいろいろな作品を楽しもう。今回の展覧会はキャプションを「やさしい日本語」にいたします。家族全員でお楽しみください。



刀 銘濃州赤坂住兼元作 室町時代

企画展

「ウルトラ超絶技巧の世界」

「雲類×青江派+正阿弥勝義」

令和7年9月20日(土)～11月16日(日)

鎌倉時代後期から南北朝時代に、岡山市北区御津の地において活躍した刀匠一派を宇甘派と言い、通字に「雲」を用いて、雲生・雲次・雲重と続いたことから雲類とも呼ばれた刀匠たちがいました。作風は山城国来派や備中国青江派に近似しており、出自を含めなぞの多い刀匠たちです。透明感のある鋼、穏やかで明るい刃文、激しい映りを表現した雲類の作品は、まさに鉄の超絶技巧品です。あわせて岡山藩のお抱え金工師から、廃刀令以降は装剣金工の技をもとに、超絶技巧の金工品を製作して万博などへ出品、世界をうならせた岡山を代表する巨匠・正阿弥勝義の館蔵作品のすべてを公開いたします。岡山の地で活躍した新旧・超絶技巧の競演をご覧ください。



重要美術品 太刀 銘雲生 鎌倉時代



蘆葉達磨像 正阿弥勝義作 明治時代

特別展

全日本刀匠会創立50周年記念

「第十八回お守り刀展覧会」

令和7年11月29日(土)～令和8年1月18日(日)

全日本刀匠会と共催する現代刀匠による新作のお守り刀の公募展で、刀身・研磨・外装・総合の4部門を有し、刀剣界唯一の文部科学大臣賞を賜うることができる全国規模の公募展覧会です。お守り刀文化の継承を行いつつ、木工・金工・漆芸・染織など伝統工芸の総合美としての技術伝承を行います。



第十七回お守り刀展覧会 文部科学大臣賞  
上山輝平作 黒漆塗合口腰刀拵

同時開催として、館蔵の刀剣や拵を展覧し、古より伝わった刀剣製作技術や文化をご紹介します。

企画展

「愛でたい、お姫様たちのひな道具」

令和8年2月7日(土)〜3月29日(日)

節句祝いの「ひな祭り」ですが、もとは中国の古いお祓いに由来しています。3月初めの巳の日である「上巳」は忌日とされ、平安時代には災いをうつした「形代」を川に流して厄を払う「雛流し」などの行事が行われていました。江戸時代になると、この厄払いと人形やお道具で遊ぶ「雛遊び」が合わさり、子の成長や厄除けを祈念したミニチュアサイズの雛道具が制作されるようになります。本展では岡山藩主池田家に伝わる江戸から明治の雛道具を中心に、小ぶりで愛らしいお道具の数々をご紹介します。



破七宝繋丸十字牡丹紋飾給雛道具(傘・提重) 明治時代

公募展

林原美術館主催

第一回新作公募展「掌」

たなこころ

令和8年2月7日(土)〜3月29日(日)

「両の手で愛でる掌のアート」をコンセプトに、若手芸術家の支援と伝統工芸の発展に寄与する新作公募展です。第一回目の課題作品は、日本を代表する工芸のひとつで、その卓越した技術・意匠美は国内のみならず、欧米・ヨーロッパを中心に世界からも注目されている「漆芸」です。本展では、受賞、入選作品を選考し、表彰・展示公開いたします。※出品要項などの詳細は当館HPをご覧ください。

【協賛】ナガセウィータ株式会社

合同会社伝統工芸木炭生産技術保存会

特別企画

「和菓子とお抹茶の日」

明治21年(1888)創業・130年の歴史をもつ老舗の和菓子屋「松涛園」(岡山県倉敷市玉島)にご協力いただき、展覧会にちなんだ特別な和菓子をお抹茶とともに提供いたします。詳細は、展覧会ごとで作成するポスター・チラシなどの広報物にてお知らせします。  
日時：①令和7年6月1日(日) 10時〜14時  
②令和7年8月頃 ③令和7年11月頃 ④令和8年3月頃

場所：林原美術館内ロビー  
定員：各日20名(Webにて要予約)  
お茶菓子代：600円(入館料別途)

イベント

※イベントの掲載内容は変更になる場合がございます

コンサート「三船文彰と仲間たち」

―室内楽名曲の楽しみ―

毎年大変ご好評を頂いております三船文彰氏のチェロコンサート。今年も日本と台湾より、三船氏と親交の深い奏者の皆様をお招きし、ピアノ五重奏「まず」等の楽曲を披露していただきます。国境を越えた豪華な編成によるコンサートをお楽しみください。  
日時：令和7年4月5日(土)  
開場18時 開演18時30分  
出演：チェロ 三船文彰氏、バイオリン 辛明峰氏(台湾)、ピアノ 菊池東美(台湾)、コントラバス 谷一尚氏(林原美術館館長)

場所：林原美術館内特設ステージ  
定員：60名(Webにて要予約)  
参加費：2,600円(入館料別途)

書道パフォーマンス

大きな紙に力強く文字を書く書道パフォーマンス。岡山芳泉高校の美術部の皆さんが描いた絵の上に、書道部の

皆さんが迫力ある「ことば」を大書します。高校生の瑞々しい感性で表現された作品と、力強く優雅なパフォーマンスをお楽しみいただけます。  
日時：令和7年5月4日(日・祝)  
13時30分〜14時30分

場所：林原美術館内ロビー  
出演：岡山県立岡山芳泉高等学校 書道部・美術部  
参加費：無料(入館料別途)

岡山県立図書館・林原美術館連携イベント

「けまらたのしやいとをかし」

岡山県立図書館との連携イベントとして、蹴鞠の普及と日本の伝統・文化・芸術の発展を目的に京都・京丹波美女山里で普及活動をされている「けまり鞠遊会」代表の池田遊彦氏と副代表の蒼圭氏を講師にお招きし、蹴鞠の歴史講座のほか、蹴鞠の実技体験や鹿革でつくる蹴鞠ストラップのワークショップを開催します。  
※イベントの内容・開催日時・会場・申込先が異なりますので、詳細は岡山県立図書館・林原美術館のHP等でご確認ください。

①「はじめてのけまり」に挑戦しよう!  
日時：令和7年5月10日(土)  
13時〜15時

申込先：岡山県立図書館  
②歴史講座「日本の蹴鞠とその歴史」  
日時：令和7年5月11日(日)  
10時30分〜12時

申込先：林原美術館  
③ワークショップ  
「鹿革で蹴鞠ストラップをつくろう!」  
日時：令和7年5月11日(日)  
13時30分〜15時

申込先：林原美術館

ワークショップ「備前焼」体験

土の生命力と、窯を走る炎によって生み出される備前焼。匠の技により、備前焼は火樗や胡麻などをその身に纏い、無限の変化を見せる焼物です。備前焼の持つ奥深い魅力を日本、そして世界に発信する備前焼作家、平川忠氏と赤井夕希子氏を講師に迎え、備前焼の製法につい

てお話しいただき、自身でデザインした世界に一つのお皿を作ってみませんか。お子様も大歓迎。  
日時：令和7年7月13日(日)  
①10時30分〜12時30分 ②14時〜16時

講師：平川忠氏(備前焼作家)  
赤井夕希子氏(備前焼作家)  
場所：林原美術館内ロビー  
定員：各回10名 計20名  
(Webにて要予約)  
参加費：大人3,000円  
小学生以下2,000円  
(入館料別途)

琵琶演奏

薩摩琵琶は、薩摩の戦国武将・島津忠良公が藩士の士気を鼓舞する目的で、武家の子弟たちに自作の教訓歌を歌わせたのが起源とされています。今回は、錦心流薩摩琵琶奏者の木庭澗水氏をお招きし、水攻めで有名な備中高松城の戦いを語る「高松城」と鬼の酒呑童子を退治する「大江山」の二本立てで琵琶曲を披露していただきます。  
日時：令和7年8月17日(日)  
13時30分〜15時

出演：木庭澗水氏(錦心流)  
曲目：「高松城」「大江山」  
場所：林原美術館内ロビー  
定員：30名(Webにて要予約)  
参加費：友の会会員無料、一般600円  
(入館料別途)

林原美術館講座

当館所蔵の美術品などを通じ、歴史をより広く、深く知っていただく機会として開催する美術館講座。今回は、岡山県津山の出身で明治を代表する金工家として活躍した正阿弥勝義についてお話しいたします。  
日時：令和7年9月28日(日)  
13時30分〜15時

講師：谷一尚(当館館長)  
演題：「正阿弥勝義の超絶技巧」  
場所：林原美術館内ロビー  
定員：30名(Webにて要予約)  
参加費：友の会会員無料、一般600円  
(入館料別途)

イベント

※「イベント」の掲載内容は変更になる場合があります。

刀剣講座のお知らせ

岡山カルチャーゾーン40周年記念展「ウルトラ超絶技巧の世界」特別展全日本刀匠会創立50周年記念「第18回お守り刀展覧会」の期間中は、刀剣に関するイベントを開催する予定です。展示とあわせてお楽しみいただける内容となっております。詳細は随時お知らせいたします。

お茶会「速水流の茶にふれて」

毎年ご好評を頂いております「お茶会」のご案内です。今回は茶室「竹明庵」にて速水流の祖である速水宗達の「茶の湯の心」を紹介します。孟冬の候、「和敬清寂」を旨とした宗達の茶の湯に触れてみませんか。

日時：令和7年12月7日(日)10時10分～16時35分  
 (お茶席最終受付は15時35分)  
 亭主：石田宗祥氏(速水流)  
 場所：林原美術館内 茶室「竹明庵」  
 定員：50名(要予約)  
 参加費：1,600円(入館料別途)

ワークショップ「つまみ細工」

岡山県倉敷市で「つまみ細工」の教室を主宰する安谷由紀氏を講師にお招きし、正絹(シルク)をピンセットでつまんで小物をつくるワークショップです。針や糸を使わず、現代風にアレンジした作り方になっています。ではじめての方も大歓迎！今回は、カラフルな色の花卉が可愛い小物作りに挑戦します。

日時：令和8年2月8日(日) 13時～15時  
 講師：安谷由紀氏(つまみ細工ゆきいち)主宰  
 場所：林原美術館内ロビー  
 定員：10名(Weebにて要予約)※小学生以下は保護者同伴  
 参加費：3,100円(材料費込み、入館料別途)

チャリティーコンサートのお知らせ

展示品をテーマに、くらしき作陽大学音楽学部作曲専修生と教員が作曲し演奏発表します。後半はジャズやポサノバでリラックスタイム。新涼のひと時を演奏とともにお楽しみください。

日時：令和7年9月7日(日)  
 開場18時30分 開演19時  
 出演：くらしき作陽大学音楽学部学生・他  
 出 演：米倉孝コンボ  
 場所：林原美術館内 特設ステージ  
 定員：60名(当日定員になり次第締め切りになります。)  
 参加費：チャリティー募金(入館料別途)

「デジタル常設展」のご紹介

当館ロビー等に設置のタッチパネルで、ご自由にご覧ください。4K超高精細技術により、通常の展示では判別しにくい細部まで驚きの超拡大映像を体験できます。

「平家物語絵巻」・国宝「太刀銘吉房」の他、重文「アジア航海図」・「坤輿万国全図」等、大航海時代の詳細な世界をお楽しみください。また、当館を代表する美術品を掲載した図録「林原美術館名品選」の全230件余りに及ぶ画像も常時ご覧いただけます。(※貸館期間、イベント開催時は除きます。)

理事・評議員・監事のご紹介

代表理事	長瀬玲二	評議員	朝倉研二
理事	谷一尚	評議員	白井洋輔
理事	黒住章子	評議員	高次秀明
理事	松田正己	評議員	原 憲一
理事	横山拓二		
		監 事	加瀬野忠吉
		監 事	寺坂幸治

※令和7年3月現在 (五十音順)

施設の利用・貸し出し

当館では、展示室・ロビー・庭園・茶室などを使用し、非日常でのコンサート、お茶会、パーティーなどにご利用いただいております。ご希望の方は、所定の用紙での申し込みが必要となりますので、お気軽にお問い合わせください。

対象	補足内容	単位	料金
展示室	(a)平日	1日につき(午前9時30分～午後6時)	37,500円
	(b)土・日・祝日(振替休日を含む)	上記時間帯外の使用の場合は時間案分料金が加算されます。	75,000円
	(c)展示期間中の閉館時間帯(～午前10時、午後5時～)	1時間につき	3,500円
ロビー	飲食を伴う場合は、参加者1名当たり200円が加算されます。		
庭園・茶室			
控 室	出演者等の控室としてのご使用	1日につき	2,000円
電気・空調	展示室・ロビーを使用の場合	1時間につき	2,000円
ピアノ	本体	1時間につき	3,500円
	調律料(実費請求とします。)	1回につき	35,000円
附属設備	机、椅子等の備品類		別途必要
時間外管理費	通常の勤務(午前9時30分～午後6時)時間外に利用の場合	1時間につき	別途必要
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間単位設定の場合、1時間未満の時間は1時間として計算します。</li> <li>・使用時間には、準備・片付けなど会場を占有する時間も含まれます。</li> <li>・展示室の展示期間中のご利用は、人数当たりの入館料を頂きます。</li> <li>・展示室内の空調は、美術品優先の設定となります。</li> <li>・本規定は、令和7年1月1日現在です。</li> </ul>		

収蔵品概要と建物のご紹介

実業家でありながら、古美術を愛好した、故林原一郎が収集した刀剣・甲冑・陶磁器、岡山藩主池田家旧蔵の能面・能装束・絵画・書跡・時給工芸品など、国宝3件・重文26件を含む約9,000件を収蔵しています。本館は、世界的建築家ル・コルビュジェに師事した日本を代表する前川國男氏の設計により、純日本的な長屋門・土蔵・茶室・庭園とマッチし、ゆつたりとした時間の流れを感じられます。また、ミシラン・グリーンガイドで、当館全体として(★)、重要文化財「洛中洛外図屏風」(★★)や能装束(★)の3件が掲載されました。

「友の会」募集のご案内

●会員の種類・年会費  
 【1年】(新規)3,000円 (継続)2,700円  
 (10月以降入会) 1,500円  
 【3年】7,200円  
 【1年】(新規)30,000円 (継続)27,000円  
 (10月以降入会) 15,000円  
 【3年】72,000円

●有効期限  
 ●1年会員 令和7年4月1日～令和8年3月31日  
 ●3年会員 令和7年4月1日～令和10年3月31日

●会員の特典  
 ①入館料無料または割引料金  
 【企画展】ご本人と同伴者1名様 無料  
 【特別展】ご本人と同伴者1名様 割引料金  
 ②展覧会・イベントのご案内の送付  
 ③「林原美術館NEWS」のお届け  
 ④イベントへの割引料金(一部対象外)でのご案内  
 ⑤賞品の優待  
 ⑥スタンプラリーで当館関連グッズをプレゼント  
 ⑦ミュージアムグッズを割引価格で販売(一部対象外)  
 ⑧喫茶コーナーのお飲み物を割引価格で販売(一部対象外)  
 ⑨会員様を含む、5名様以上のグループであれば、学芸員による特別解説を実施(要予約)  
 ⑩入会の申し込みおよび詳細は、美術館スタッフまでお尋ねください。

臨時休館等のお知らせ

自然災害の発生や悪天候により、事前の告知なく、開館時間の短縮や臨時休館する場合があります。臨時休館等の条件は当館ホームページをご覧ください。なお、緊急のお知らせは各種SNSなどでも発信しておりますので、ご確認ください。

〒700-0823 岡山市北区丸の内二一七-一五  
 一般財団法人 **林原美術館**  
 TEL 086-231-1733  
 FAX 086-231-0819  
 https://www.hayashibara-museumofart.jp/  
 @hayashibara.moa @hayashibara1964